

# 気候変動時代の幼児教育：関係的な世界と 〈共に/その中で〉継承することを学ぶ

2025年9月23日（火）9:30-11:00（日本時間）

オンライン開催

同時通訳あり 参加費無料 事前申込制（先着1,000名）

本セミナーは、気候変動時代の幼児教育をテーマとしたセミナーの第3回目です。日本、カナダ、スウェーデンの共同研究者が集まり、カナダ・ブリティッシュコロンビア州カムループスのトンプソン・リバーズ大学からセミナーをお届けします。ヴェロニカ・パシーニ=ケッチャボーア教授と、ペダゴジストのテレサ・スミス氏、ナーダ・ネルソン氏が「関係的な世界と〈共に/その中で〉継承することを学ぶ」というテーマで講演します。

## 開会挨拶・企画趣旨

浅井 幸子（東京大学 教授 / CEDEPセンター長）

講 演 気候変動時代の幼児教育：関係的な世界と〈共に/その中で〉継承することを学ぶ

ヴェロニカ・パシーニ=ケッチャボーア（ウェスタン大学 教授）

テレサ・スミス（ブリティッシュ・コロンビア幼児教育ペダゴジー・ネットワーク ペダゴジスト）  
ナーダ・ネルソン（ピクトリア大学チャイルドケア ペダゴジスト）

ウェビナーの前半では、パシーニ=ケッチャボーア教授が、カナダの幼児教育における「コモン・ワールド」アプローチに内在する複雑性と倫理的配慮について論じます。特に、子どもたち、家族、幼児教育者と共に新たな軌跡を切り拓きながら、土地と共にあり、また土地の内に根ざした、継承の実践に生命を吹き込むことに焦点を当てます。

後半では、ペダゴジストのテレサ・スミス氏とナーダ・ネルソン氏が、カナダ西部の文脈において教育者と共に「よく継承する（inherit well）」ことに、どのように取り組んだかの実践事例を紹介します。テレサ氏は、子どもとイモムシとの関係を複雑さの中に置き直す教育プロジェクトを通して、幼児教育における存在の人間中心的なあり方を描きます。ナーダ氏は、3~5歳児クラスにおける教育的瞬間をたどり、地球規模の火災や洪水への子どもたちの関心と、地域の「人間以上のものを含む世界」との間のつながりを浮き彫りにします。

ウェビナー全体を通して、登壇者たちは、幼児教育において、現在的な状況に応える準備をし、新しい可能性を世界化していく上で、ペダゴジストの果たす役割を焦点化します。

討 論 野澤 祥子（東京大学 特任教授 / CEDEP）

グニラ・ダールベリ（ストックホルム大学 名誉教授）

ボディル・ハルバース（ストックホルム大学 幼児教育プログラム・ディレクター）

インゲラ・エルフストロム（ストックホルム大学講師（元））

ヴェロニカ・パシーニ=ケッチャボーア氏は、カナダ・オンタリオ州のウェスタン大学教育学部幼児教育学科の教授であり、ブリティッシュ・コロンビア幼児教育ペダゴジーネットワークの共同ディレクターを務めている。彼女の著作や研究は、コモン・ワールド・リサーチ・コレクティヴ（子どもと場所・物質・他の種との関係をたどる）や、幼児教育ペダゴジー・コラボラトリ（21世紀のペダゴジーの輪郭・条件・複雑性を実験的に探究する）に貢献している。

テレサ・スミス氏は、ブリティッシュコロンビア幼児教育ペダゴジーネットワークに所属するペダゴジストであり、

カナダ・ブリティッシュコロンビア州内陸部のセクウェペムク（Secwepemculecw）の地で、子ども、教育者、家族と共に活動している。彼女の教育実践は、人間および隣人であるモアザンヒューマンとの日常的関係に焦点を当てている。スミス氏は、21世紀の複数かつ重なり合う危機と可能性に創造的に応答しながら、人間が多くの地球上の種のひとつとして、生き生きと暮らしていく場として幼児教育を構想している。

ナーダ・ネルソン氏は、ピクトリア大学チャイルドケアに所属するペダゴジストであり、ジェンダー研究のバックグラウンドと、カナダ・アルバータ州北部（トリーティ8テリトリ）で育ったことをいかし、幼児教育において、植物・動物・廃棄物の流れの関係と共に倫理的な未来を再想像することに焦点を当て、学際的なアプローチを展開している。ネルソン氏は現在、ウェスタン大学教育学部の博士課程に在籍しており、幼児教育ペダゴジー・コラボラトリとコモン・ワールド・リサーチ・コレクティヴのメンバーである。



申し込み：

[www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20250923seminar/](http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20250923seminar/)

